

35

千代田区景観まちづくり重要物件

明神下 神田川本店

指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 外神田二丁目 5 番 11 号

設計者 不詳

竣工 1952（昭和 27）年

文化財等
指定状況



▲エントランスの様子

歴史・文化的特徴

江戸末期 1805（文化2）年創業の、うなぎ蒲焼の老舗です。幕府の賄い方に勤めていた初代が、流行りたての鰻の蒲焼きに目を付け、万世橋の近くで商売をはじめたことが成り立ちとされています。

文政年間に平賀源内が「土用の丑の日にうなぎ」のキャッチフレーズを考えたのはこの店の依頼だと言われています。落語家の 8 代目桂文楽の「素人鰻」という落語の中に店名が出てきます。また、文豪・夏目漱石も正岡子規と共に訪れています。

意匠・構造の特徴

下町ではほとんど見られなくなった「粋な黒塀、見越しの松に～」という町屋の姿を残しています。瓦屋根・モルタル塗り外壁と、よくある外観ですが、内部に戦前期の和風建築の技術の継承がうかがえます。

周辺景観との関係

秋葉原電気街のすぐ脇の、外堀通り沿いにある、黒塀に囲まれた町場の料亭です。

かつての明神下の雰囲気を残す稀少な景観となっています。



▲高層建築物に挟まれている様子